

教会短信

2006年10月15日

No. 11

牧師 間瀬 善彦

最近私が気になる言葉として、「向上心」とか「自己実現」というのがあります。言葉としては本当にいい言葉です。しかし、人は一体何に向かって、向上しようとするのでしょうか。人はどのような状態になったら、自分は自己実現したと満足できるのでしょうか。どうもその点を突き詰めて考えると、自分が他人よりもいい暮らしをしたいとか、結局は自分のためなのだと思えて仕方がありません。自分のために努力することが決して悪いと言うものではありません。でもそれだけでその人の人生は満足できるでしょうか。時には、人のために何かお役に立てるようなことをする。人のために時間を浪費したり、人のために損をする生き方も素晴らしいのではないのでしょうか。

三浦綾子さんの「病めるときも」という本の中にこのような言葉があります。「畏作、お前はいま、どうしたらいいかわからないと言ったがね。わたしは若いときに、こんなことを牧師さんに言われたことを覚えているよ。右か左か判断に迷うときは、自分の損になるほうを選びなさいとね。それ以来なるべくそのように生きてきたつもりだが、あとからふり返って考えると、それがどうやら神の御心にかなった生き方のようだったなあ」。

聖書に登場する人物でパウロという人がいます。彼は、ユダヤ人の中のエリートで、家柄も良く、学問もでき、ユダヤ教の優等生でした。彼は、最初はキリスト教の迫害者でした。しかし、ある時、復活されたキリストに出会うという不思議な体験をして、人生が大きく180度転換させられました。今まで、益だと思っていたことを損と思うようになり、損と思っていたことを益と思うように変えられました。聖書の中でパウロはこのように言っています。「わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになった」(フィリピ 3:7)。皆さんの中にもいろいろな人と出会い、関わりを持つことで、時には厄介なことを背負い込むことになったという人もいるでしょう。人のために労力を使い、時間を無駄にし、時には損を受けることもあります。しかし、実はそれは私たちが最終的に神のもとに行く時、すべてが益にされるのです。

イエス・キリストとの出会い

私自身、幼稚園、大学がキリスト教系ということもあり、キリスト教は縁遠い存在ではなかった。大学時代、宗教もいろいろある中で、割となじみがあるものに映っていた。しかし同時にキリスト教そのものへの疑問や不安もあり、宗教などなくてもよかったと思ってもいた。たとえば、イスラエルやパレスチナの問題や、アメリカのキリスト教原理主義やネオコン、北アイルランドの問題などを見るたびに宗教などないほうがいい、なければ対立も消えると思っていた。それとは別に、日本の多くのキリスト教会の平和運動、日の丸・君が代問題、その他社会問題で大いに共感できる面もあった。社会の活動、社会的な問題に対する関心はあったが、具体的に何をすると考えると、行動に移せなかったのも事実だった。

その後、就職をしたり、地元を離れて仕事したりなど、キリスト教への関心はありながらも、行動に移せないで時は過ぎていった。今の経堂の教会を知るまで、別の教会に参加したこともあった。キリスト教の教義や賛美歌にふれるよい機会であったが、不満もあった。社会とのかかわりが不十分なこと、社会問題に背を向けるように思っていたので、その教会にいかなくなった。

2005年の冬、ある教会員がきっかけで、この経堂バプテスト教会に通うようになった。そして日本に住んでる人間という観点からキリスト教とその教えについて考えること、そして聖書を全体の文脈から解釈することを学んだ。

以前の教会では、聖書を何か律法主義的にとらえているように感じたが、同じ教会でも新しい見方があると感じた。

同時にバプテスト連盟のホームページも見、さまざまな見解を読むにつれ、賛同できる思いが強まってきた。

また社会問題も大事だが、政治だけ、社会だけでない、心や精神が変わることも大切と感じるようになってきた。そしてそれは、一人でも参加できる、何か出来ることがあるという思いであった。

同時に、信仰を中心に生きることが大切だという考えが芽生えてきた。教会は、仕事や実利抜きの新しい世界であり、穏やかになれる世界をえてよかったとも。不十分ながらも自分自身の考えにも影響は出てきたと思う。そしてキリスト教世界の問題も、実はキリスト教の問題ではなく、それを利用する側、キリスト教に名を借りている人間の問題と考えるようになった。その過程でいままですべて神を、イエス様を信じないで、神はいらないとしてきた自らを恥じるようになった。少しずつ聖書が自らのなかに入ることを感じている。まさにコロサイの手紙にある、「私たちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました」(1-13)がそのとおりに思えるようになってきた。今までの心の中のあいまいさが整理され、人生の方向が見えてきたからだ。イエス様の教えを受け入れていくことで変わっていけるということを理解するようになってきた。正しい観点から物事を学ぶことが見えてきた。箴言にも次の言葉がある。「主を恐れることは知恵の初め」(1-7)という言葉である。イエス様の教えが書かれているのが聖書だ。聖書なき信仰はない。イエス様を救い主としてこれから従っていきたい。

【教会歳時記】

チャペル・コンサート（10月29日午後2時より）

チャペル（chapel）は、キリスト教の礼拝堂・小聖堂。学校や病院に設置されているものを指す場合が多い。と、ものの本に書かれています。

コンサート（concert）は、音楽会・演奏会のことであり、「チャペル・コンサート」とは、文字通り「教会の音楽会」であります。

経堂バプテスト教会では、毎年、秋に開催しています。教会の聖歌隊とまではゆかないが、教会員も出演し、更に、プロともいえる方々の応援をうけたり、少年ピアニストが出演してくれたり、バラエティに富んだ出演者で、毎回好評を受けております。

今年も、趣向を凝らして開催する予定で、目下、企画、レッスンに熱中しております。

どなたでも御来場いただいて結構です。大歓迎いたします。教会とはどんなところか、と偵察を兼ねても結構です。ぜひ、御来場をお待ちしております。



教会バザー（11月19日午後12時30分より）

バザー（bazaar）、慈善市・即売会。資金集めのために有志が持寄った物品を販売する市。原義は、市場。と辞書には書かれています。この教会では、春と秋の二度バザーを開催しています。

教会員からの献品、又は有志の方々からの寄贈されたものを廉価で販売し、収益は教会の伝道費として献げられ、その中から、国内、国外つまり、タイのサマリヤの家、インドのプリ子供の家へと献げられます。衣類・装飾品から日用雑貨、教会員が心をこめて作った軽食品から嗜好品、喫茶コーナーまで揃え、毎回多数の方に御来場をいただいております。人気商品は、あっという間に売り切れることもあり、注目を集めております。今年も知恵をしぼり、腕によりをかけて企画し、ディスプレイして皆様のお出でをお待ちしています。

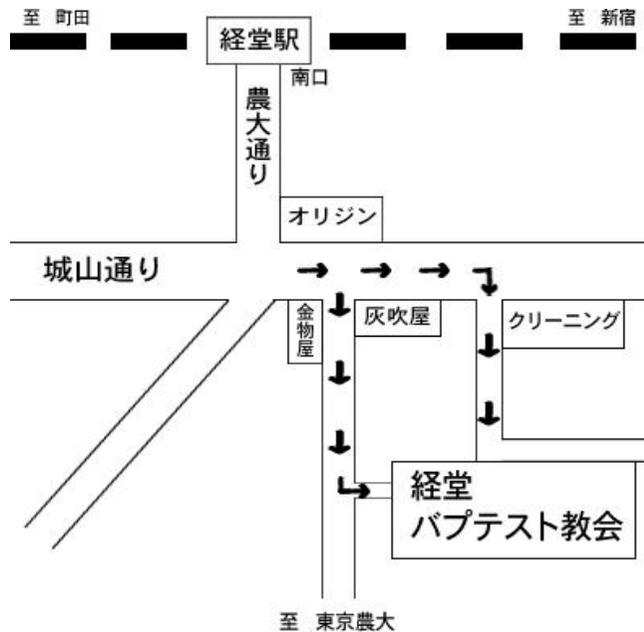
教会員でなくても、一度も教会という所に足を踏み入れたことのない方でも結構です。

どうぞ、お出かけ下さい。そして、これを機に、教会というものを御理解いただければ、私共はこれに勝る喜びはありません。

以上、今号の歳時記は、「コンサート」と「バザー」のご案内としました。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。